株式会社
日向中島鉄工所
50年史

HYUGA NAKASHIMA
50th anniversary

経営理念

ものづくりを継承し、
ヒト・コト・トキづくりを通して創ります
地域から明るい未来と幸せを！

社是

信用第一

信用は、無形の財産である。

誠実は、信用の原点である。

協力は、最大の力を発揮する。

共生は、事業の永続に不可欠である。

行動指針

地　域

・地域に寄り添い、イベントやボランティア活動に積極的に参加します。

・子供たちの学びと成長の場を提供します。

・環境の保全を考え、資源の活用を推進します。

お客様

・お客様の笑顔を第一に考え、信頼関係を築きます。

・安心安全なモノづくりを行い、お客様の期待に全力で応えます。

・お客様の立場に立って、何をすべきかを考えて行動します。

仲　間

・お互いを尊敬、信頼し合い、気持ちを一つにします。

・おかげ様という感謝の気持ちと、お互い様という支え合う心を大切にします。

・対話と共感によって強い絆を築きます。

家　族

・家族に感謝の気持ち「ありがとう」を言います。

・家族の笑顔を守ります。

・家族との幸せな時間を大切にします。

自　分

・みんなで決めたルールを守り、裏表のない行動をとります。

・「自分が源泉」という考え方で、何事にも挑戦します。

・周りの意見を受け入れる事を習慣にします。

ごあいさつ

株式会社日向中島鉄工所
代表取締役社長
島原 俊英
Toshihide Shimahara

昭和44年４月に、創業者と数名の社員の思いでスタートした弊社が、地域や業界において、あてにされ、多くのお仕事をいただける存在にまで成長できたことは、時代の要請もあったかもしれませんが、これまで、会社に関わり、共に歩んできていただいた方々の思いと努力の賜物です。

50年という長きにわたり弊社に関わり、支えてくださったすべての方々に、衷心より御礼を申し上げます。これからもご期待に沿うことができるように、全社一丸となって更なる努力を続けてまいります。今後とも、よろしくお願い申し上げます。

創業者島原義海が逝去した2008年の翌年に、40周年を迎えた我が社は、その後もお客様や協力企業、地域の皆様に支えられて、事業を続けてまいりました。その足跡をたどると、いかに多くの皆様の支えがあったのか、ということ、そして、その支えのおかげで、様々な挑戦をすることができたのだ、という思いを強くします。

2009年に、当時最速であったレーザー加工機の設置とISOの取得、また雇用促進事業の一環として、3DCADの導入に取り組みました。2012年には、農業関係の関連会社、ひむか野菜光房の創立とそれに関連する鮮度保持装置などの機械・装置の開発を行い、新たな事業領域の開拓にも取り組みました。2013年には、太陽光発電装置を厚生棟と工場建屋に設置し、その際に、鹿児島銀行様から環境格付け(S)の認定をいただき、社債を発行させていただきました。

2015年には、地域の視点を活用した事業活動により、地域経済の活性化や産業振興への貢献が顕著であると認められて、宮崎県中小企業大賞を受賞いたしました。創業時からお付き合いのある、地元の製糖工場である第一糖業様、醸造業界のトップエンジニアリングメーカであるフジワラテクノアート様、日本の食鳥処理プラントをリードするゴーデックスカンパニー様、日本の食肉処理場を支えるトップメーカである花木工業様などのお客様方と強固な協力関係を築き、業界を支えるものづくり企業として、事業を継続してくることができたことはこの上ない喜びです。

また、多彩なご支援を頂いている宮崎県や日向市、共同研究や技術支援を頂いている公設試験研究機関や宮崎大学、資金面や経営課題へのアドバイスを頂いている鹿児島銀行、馬服＆パートナーズ税理士事務所、橋口剛和社会保険労務士、小瀬敦司法書士、経営＆人材育成コンサルタントの大坪三郎先生、安全衛生や健康経営へのアドバイスを頂いている産業医水野智秀先生や、産業カウンセラー工藤智徳先生など、本当に多くの支援機関の方々にお力添えをいただき、さまざまな課題の解決に共に取り組むために、伴走をしていただいていることに感謝を申し上げます。

この間、採用と人材育成にも力を入れてきました。高卒・大卒・新卒・中途、技能実習生、大企業退職者など、多様な働き手、働き方の実現に取り組んでいます。2010年には、メンター制度を開始し、これまで以上に社員一人ひとりの成長に意識を向けました。若手の成長も著しく、現場のマネージメントクラスも若返り、部門間の協力体制をしっかりつくり、経営感覚をもって、リードをしています。

３年前から、未来プロジェクトと人事考課改定プロジェクトを立ち上げました。その目的は、経営感覚を持ち、自分たちで会社のありたい姿を描き、自らの意志と責任で会社を変えていく、そんな「自立した人が育つ会社」をつくる、ことです。そのプロジェクトから、どんな問題にも自分事として主体的に取り組み、あきらめずにやり抜くリーダーが育ってきています。そして、その未来プロジェクトから、自発的に新たな5つのプロジェクトが立ち上がり、50周年記念の取り組みを進めてきました。

我が社が、50周年を機にさらに発展をして、地域になくてはならない企業であり続けるために必要なことを、一から考え、未来プロジェクトのメンバーを中心として全社員で協力して準備をしてくれました。

①ブランディング＆コーポレート・アイデンティティ、②記念式典・記念誌制作、③記念旅行企画、④福利厚生、⑤社会貢献、などのプロジェクトで創り上げた新たな企業像は、これから、永く会社の歴史に残り、100年企業に向けた成長・発展の礎となることでしょう。皆さんの努力と団結力を誇りに思います。

組織全体や地域全体のことを考え、リーダーシップを発揮して、周囲や環境に良い影響を与えるとともに、自分の人生の主役として自分らしく生きる自立した社員が育ってきていることを、心から嬉しく思っています。

大阪中小企業投資育成会社様と役員・社員の皆さんに株主になっていただき、経営に対する多様な視点やチェック機能も取り入れました。そして、50周年を機に、生産性の向上と付加価値の創出をめざして、新工場建屋の建設、IOTを活用した生産・設備の管理システムの導入を行いました。IOTやAI、第4次産業革命などの、大きな社会変革に対応し、そして、その変化を創りだす体制が整ってきていると感じています。

自社の持続的発展のためには、地域や業界の活性化が不可欠です。これまで、自社の経営のみならず、地域の仕事づくり、人づくりについて、様々な役割を担い、力を注いできたのは、そういう考えからです。一昨年、昨年と、アメリカや欧州に視察に行って強く感じたことがあります。地域の活力を生み出すのは、地域に根ざした企業や住民の力だ、ということです。ありたい姿を明確に描いて、すべての出来事や課題を、政治や行政、経済の仕組みのせいではなく、自分事として捉え、今から、ここから、自分から、行動を起こしていかなければ、何も変わらないということです。

これまで、多くの方々と共に学び、切磋琢磨し、地域を良くするために活動をしてきました。中小企業家同友会、宮崎県工業会、ひまわり工業会、日向地区中小企業支援機構、宮崎県教育委員会などでの取り組みは、地域を担う人材やリーダーを育て、地域の経済を活性化させることと同時に、弊社が地域の資源を生かして、前に進む推進力となる地域力経営につながっています。会社と地域を守り、私たちと共に生きる大切な人々のために、そして、私たちに続く未来の世代のために、同じ志をもった皆様と共に、与えられた役割、使命を全うしていく所存です。

創業の精神を大事にすると共に、新たな理念のもとに全社員の力を結集して、新しい価値を生み出し、会社と地域の更なる発展に尽力していきたいと考えていますので、皆様方の更なる叱咤激励とご指導を賜りますように、お願い申し上げます。

平成31年４月吉日

ものづくり技術と先見性

宮崎県知事
河野 俊嗣
Shunji Kouno

株式会社日向中島鉄工所の創業50周年を心からお祝い申し上げます。

御社におかれましては、創業者の故島原義海氏が昭和44年に創立されて以来、半世紀の長きにわたり、発酵・醸造機械や食肉・食鳥処理機械など、食品産業向け機械・設備の製造を事業の柱として発展を続けてこられました。

近年では、これまで培ったものづくり技術と企業経営のノウハウを生かし、株式会社ひむか野菜光房の共同設立により植物工場を起業されるなど、新たな事業にも先見性を持って積極的に取り組まれ、地域経済に多大な御貢献をいただいております。この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

記念すべき50周年を迎えられましたのは、ひとえに「信用第一」の社是を一人ひとりが実践され、事業の発展につなげてこられた結果であり、島原社長の強い信念とリーダーシップの下での社員の皆様方の御努力の賜物と深く敬意を表する次第であります。

さて、我が国は、本格的な人口減少の局面に入り、特に地方においては、地域の社会経済活動への大きな影響が懸念される中、県では、地域の経済・雇用を支える企業の持続的な発展を図るとともに、今後の宮崎を担う産業人財の育成・確保に取り組むため、各種の施策を全力で進めているところであります。

このような中、島原社長におかれましては、平成24年から県の教育委員に御就任いただいており、また、宮崎県中小企業家同友会の代表理事、一般社団法人宮崎県工業会の理事など、各種団体の役員を数多く務めておられます。

私も宮崎県総合教育会議などで直接お話を伺う機会がありますが、子ども達の未来や地域の産業人財の育成・確保に強い情熱を持って活動しておられることを、大変心強く思いますとともに、「人間性」、「誠実さ」を大切にされている会社の理念を社長の人柄にも感じているところです。

人口減少に伴う様々な課題の解決のためには、県民の皆様一人ひとりの力の結集が必要となります。日向中島鉄工所の皆様方におかれましては、今後とも、本県経済の活力と魅力あふれる地域づくりのため、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、御社のますますの御発展と社員の皆様の御健勝、御活躍を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

高い技術力と徹底した品質管理

日向市長
十屋 幸平
Kouhei Toya

株式会社日向中島鉄工所が、記念すべき創立50周年を迎えられ、その輝かしい足跡を綴る記念誌が発刊されますことを心からお喜び申し上げます。

貴社は、昭和44年の創立以降、高い技術力と徹底した品質管理をもって顧客の要請に丁寧に応え続け、地域密着型の企業として宮崎のものづくりを牽引してきたと言っても過言ではありません。

現社長の島原俊英さんとは個人的にも公私ともに長いお付き合いであり、ちょうど私が県議の頃、一緒に長野県の植物工場を視察したことが思い出されます。当時から志を高く持っておられ、意欲と向上心に満ち溢れた経営者でありましたが、将来の展望や夢、理想について熱く語る彼の姿には、期待感を抱かせるものがありました。平成13年、39歳という若さで社長に就任され、ここまで立派に社業を発展させてこられた俊英社長ですが、御父君である先代の故・島原義海会長から社業を継承した当時のプレッシャーは並大抵のものではなかったであろうと拝察いたします。

しかし、事業拡大と社風の変革を手掛けられ、人材育成にも力を注ぎながら、平成26年には農商工の連携による「ひむか野菜光房」を設立されるなど、新たな分野にも挑戦されており、常に進化させようとする強烈なマインド、エネルギーが不安より勝った結果であろうと思います。

貴社が今日のご隆盛を迎えられましたのは、ひとえに歴代社長の優れた経営力・決断力によるものであり、創業以来、社員の皆様で共有し脈々と受け継いでこられた「信用第一」という社是と５つの経営理念、そして社員の皆様のご努力の賜物であると、深く敬意を表する次第であります。また、貴社が自社の利益の追求だけでなく、地域の活性化にも力を注いでおられる点にも大変敬服いたしております。

小・中学生を対象とした「企業による出前授業」や、「職場体験学習」の実施、高校生・大学生の会社見学やインターンシップの受け入れなど、子どもや若者に学ぶ機会を与え、働く喜びや苦労、魅力などを教えていただいており、本市のキャリア教育に対するご貢献には本当に頭の下がる思いであります。

これら数々のご功績が認められ、平成27年に県内産業の振興や地域経済活性化に貢献している企業を県が表彰する「宮崎中小企業大賞」を受賞されましたことは、まさに当然の結果と言えるのではないでしょうか。貴社には、地域経済の発展と豊かな社会の実現に向け、なお一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

さて、本市では、「海・山・人がつながり　笑顔で暮らせる元気なまち～リラックスタウン日向～」の実現に向け、第２次日向市総合計画及び日向市総合戦略に基づき、各種施策の推進に努めているところであります。産業振興分野では、日向市産業支援センター「ひむか-Biz」や「日向市しごと創生拠点」を中心とした中小企業支援施策の展開を図るとともに、現在は中小企業振興のための基本条例の制定に向けた準備も進めておりますが、これらの施策を通して貴社のように地域を、日向市を活気づけてくれる元気な企業が数多く現れることを願ってやみません。

結びに、貴社がこの50周年をひとつの節目として更なる発展を遂げられますこと、並びに島原社長をはじめ社員ご一同様のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。

地域密着型経営で地域に貢献

国立大学法人 宮崎大学
地域資源創成学部 教授 博士（経済学）
吉田 雅彦
Masahiko Yoshida

株式会社日向中島鉄工所が、めでたく創業50周年を迎えられましたこと、まことにおめでとうございます。

島原 俊英 代表取締役社長様はじめ株式会社日向中島鉄工所の皆さまには、宮崎大学に地域資源創成学部（略称「地域学部」）が設立された2016年から、学生に対する授業や企業見学の受入れなどでご指導を賜っております。この場をお借りいたしまして厚く御礼申し上げます。

地域学部では、１年生の４月から、学生自身が将来の人生設計を考えるために、各界で仕事を究めた方々に、それぞれの道で「働く喜び」を語っていただく授業をしております。島原社長様にはものづくり、中小企業経営など仕事に関わることに加えて、人生をどう生きるかについて毎年お話しをしていただいております。学生からは「社会は常に変化していて自分たちは一生勉強していかなければならないと思った」「信用第一という会社の社是に共感した」「何のために生きるのか人生の目的を決めて生きることが大事だということがわかった」といった感想が寄せられました。

企業見学では、本社工場と株式会社 ひむか野菜光房をご案内いただき、「人材育成に力を入れ、会社が持続できる仕組みづくりをされている」「社長が視野を広く持っているので、経営や業務の幅も拡大されている」「新しいことへ挑戦しているので独自性を創出している」「中小企業ならではの地域密着型経営で地域に貢献している」といった気づきを学生が得ることができました。

2000年頃を境にして今の時代は、日本をはじめとする先進国の優れた大企業であっても単独で技術開発や製品開発をするのではなく、それぞれの分野で力を持った中小企業や、必要な技術を研究している大学教員などと組んでビジネスモデルを作っていくオープンイノベーションの時代になっていると言われています。オープンイノベーションを行っていくには、ともにプロジェクトを進めるパートナーとの信頼関係が最も重要になると言われています。そのような時代の中で、御社は世界の動きを感じ取りながら、信用、誠実、協力、共生という社是の元で、これからも重要な役割を果たしていかれるであろうことを確信しております。

御社の今後のますますのご発展と、島原社長はじめ皆さまのご健勝を祈念いたしまして、50周年に寄せてのお祝いとさせていただきます。

contents

社是・経営理念 …… 2

ごあいさつ …… 4
株式会社 日向中島鉄工所代表取締役社長　島原 俊英

50周年に寄せて
宮崎県知事 河野 俊嗣 …… 7
日向市帳 十屋幸平 …… 8
国立大学法人 宮崎大学 地域資源創成学部教授 吉田 雅彦 …… 9

創業期から40年まで 1969-2008 …… 11

topic 地域に育てられ、地域とともに …… 18

10年のあゆみ 2008-2018 …… 19

Hyuga Nakashima PRIDE …… 30

夢創りプロジェクトの活動 …… 36

50周年プロジェクトの活動 …… 40

50年後のMFE HIMUKA …… 47

社員に聞きました！わたしの好きな言葉 …… 48

社内ナンバーワンはダレだ!! …… 52

組織図 …… 54

編集後記 …… 55

History of HyugaNakashima

創業期から40年まで

From1969-2008

創業期

昭和30～40年代、戦後の焼け野原から立ち上がり、高度経済成長期へと突入した日本。工業港の開港によって臨海工業地帯として整いつつある日向細島に、日向中島鉄工所は産声をあげた。

history 1945-1969

なんでもやってみらんとわからん

父親に代わって家族を養うために鉄工の世界に入った創業者・島原義海。時代は高度経済成長期へ。

13歳で一家の大黒柱に

株式会社日向中島鉄工所の創業者、島原義海が鉄工の世界に入ったのは、生活の必要に迫られてのことだった。終戦間際の昭和20年8月10日、義海の父親が亡くなった。しかし、悲しんでいる暇はない。義海には6人の妹がいる。これからは長男である自分が、妹たちを養わなくては……。13歳の夏だった。

「おじさんを頼るしかない！」。鹿児島の串木野で育った義海は、高校卒業と同時に宮崎県の延岡市で鉄工業を営む叔父・中島助市を頼って、ひとり故郷を後にした。延岡の中島鉄工所で、義海は鉄工のイロハ、仕事の何たるかを一からたたきこまれた。戦後の復興期を経て、時代は高度経済成長期へ。昭和39年には日向延岡地区が新産業都市に指定された。

叔父である中島助市の胸像と(延岡にて)

持ち前の行動力で新規顧客開拓

日向には新しい工場が続々と進出してきた。この頃、義海が目をつけたのが製糖業だ。細島臨海工業地帯に工場を建設する「共和製糖」の、機械設備の下請けを受注しようというのだ。

ところが、仲間からは猛反対された。

「バカなこつ言うな！あっこん下請けはもう他に決まっちょるが！！」

「やってみらんとわからんわ。オレひとりで行ってみるわ！」

義海は、鹿児島県喜界島と与論島での仕事の実績を手に、ひとり共和製糖に乗り込んだ。すると先方の課長が声をかけてきた。

「あんた、その訛りは鹿児島な？」

「はい、串木野出身です」

「オレは加治木じゃが！」

薩摩隼人同士すっかり話が盛りあがり、下請けとして仕事を受注することができたのである。これが、今に至る共和製糖(現在の第一糖業)との長いおつきあいの始まりとなった。共和製糖の細島進出と同時に日向出張所を設けた中島鉄工所は、同社の工場建設からメンテナンス業務まで任されることになる。ところが昭和41年、共和製糖の細島工場建設をめぐる不正融資疑惑が持ちあがる。いわゆる「黒い霧事件」。のちに共和製糖は、第一糖業として再出発する。

history 1967-1972

プレハブからの新会社出発

叔父の会社から独立。6人のメンバーから「日向中島鉄工所」は始まった。

「日向中島鉄工所」誕生

一方、中島鉄工所にも大きな事件が起きていた。社長の中島助市が、大分の現場の視察中、橋げたから落下して亡くなったのである。義海はこれを期に、独立を決意。しかし当初、会社との交渉はなかなかうまくいかず、しばらくは延岡組と日向組に分かれて仕事をするという状況だった。義海は亡くなった社長と血縁だけに、会社が分裂するような状況に胸を痛めた。しかし昭和44年、会社との話し合いがまとまり、晴れて正式に独立。新しい会社の名は、「日向中島鉄工所」。第二の父とも言える叔父の姓を冠した社名だった。

新会社は、第一糖業の敷地の一部を借りる形でスタートした。小さなプレハブの事務所ひとつ、義海を合わせ6人での出発だった。創業時の6人のメンバーのひとり、元営業技術部の黒木富男さんは、義海と初めて会ったときのことを鮮烈に覚えている。日向出身の黒木は、高校を卒業して延岡の中島鉄工所に入社した。2年目からは延岡にある会社の寮で生活していたが、日向出張所で働く義海とはまったく面識はなかった。ところがある日、日向出張所の人員が足りないから来てくれと応援を頼まれる。それも今日のうちに荷物をまとめて、日向に来てほしいという。

「朝、その話を聞いて、夜までには移るという慌しさでした。その日の夕方、日向の現場監督だった島原義海さんご自身が寮まで迎えに来てくれたんですよ。まさか監督自ら来られるとは思わないから驚きました。日向の私の実家まで送ってくれたんですが、その車中いろんな話をして、また自分から即動くというその姿勢を見て、ああこの人ならついていけると思ったものです」。

黒木は、義海がのちに独立創業したときに、まっさきについて行くことになる。義海の行動の早さは、こんな場面でも思い出されるという。

「創業から2年目、社員みんながまとまるようなアイデアはないかと聞かれました。私は野球をやっていたので、野球部を作ってみてはと提案しました。すると翌日には早速スポーツ店に出向き、バットやグローブなど道具一式を揃えてきたんです。自分は野球をやったことがないのにですよ。そうやって、人に頼むのではなく自分で動く人でした」。

昭和45年元旦、新年の家族写真(左が島原義海)

造成が始まった頃の細島工業団地

1945-1972

発展期

24時間365日、夜でも、休日でも、仕事引き受けます！という姿勢は、口コミで評判を呼び、得意先を拡大していった。「信用第一」の社是が名実ともに認められ、日向中島鉄工所の名は業界に広く知られるようになった。

history 1970-1980

鉄工業はサービス業

ときには社長自ら現場に出向く「お客様第一主義」で信用を獲得。業界内で存在感を増していった。

製缶工場建設、フル回転の日々

プレハブからスタートした日向中島鉄工所だったが、第一糖業をはじめ旭合繊や宮崎合繊などの繊維業、三菱セメントのセメントサイロ製造、日向精錬所の配管工事など、取引先は順調に増えていった。それに伴い従業員数も3年目には30人に。昭和48年には日向市亀崎に660mの製缶工場が完成。これによって各種貯槽やタンク、ボイラー、コンベアー、輸送機の製作・据付業務が可能になった。併せて事務所、休憩室、機械室も完成。第一糖業の敷地内の仮住まいから卒業し、ようやく本当の独り立ちと言えた。

この頃、南日本ハムや日本ブロイラーとの取引も始まり、のちに食品業界に強くなる素地ができていった。会社では、製品の納品に加えてその後のメンテナンスも重視していたため、先方に出向いての現場作業も多かった。社長である義海自身もまた営業兼技術屋として現場に顔を出す日々だった。取引先とは自然と、深く、長いつきあいとなっていった。

初期の頃の製缶作業。得意先でのメンテナンス作業も多かった

24時間365日体制

「鉄工業はサービス業」という義海の信念に基づき、創業当初から「24時間365日、呼ばれればいつでもお伺いします」という姿勢でお客様に向き合ってきた。修理や点検の依頼は昼夜関係なく飛び込んでくる。ましてメンテナンスは取引先の機械が止まる休日・夜間の作業が多く、依頼があれば休んでいる社員に連絡を取って派遣することもあった。「今日は休みだから行けません」は、お客様第一の会社にはありえなかった。

当然、従業員には負担がかかる。休日や夜の呼び出しに備え、家庭サービスもままならない。何より社長である義海自身も、仕事を離れる日は一日たりともなかった。「でも、たいへんだったという記憶はあまりないんだよね。みんな一丸となっていたからかなあ。ただ、ひたすらがむしゃらだった」と、黒木富男さんをはじめ古参の社員の多くは語る。

この営業姿勢において、「あそこに頼めばいつでも来てくれる」「まっさきに客のことを考えてくれる」と、取引先の信頼は高まっていった。他社が引き受けない仕事を引き受けることで、「日向中島」の名は徐々に知られることとなる。まさに社是にかかげる“信用第一”。この精神は、現在も社の核として社員一人ひとりにしみついている。そして、これこそが会社を大きく育てる要因になったと、今、あらためて噛みしめるのである。

history 1980-1990

“信用第一”

お客様がお客様を呼び、会社は軌道に乗った。仕事以外の場面でも人の輪を大切に、縁が広がる。

縁が会社を育てた。口コミが一強い！

“信用第一”をモットーに、可能な限りお客様の要望に応える姿勢は、新しいお客様を連れてくることにもなった。お客様自身が日向中島の営業マンとなって、次のお客様を紹介してくださるのだ。これは、自社のセールスマンが100のセールストークを並べるより強い。創業まもなくからのおつきあいである南日本ハムの当時の工場長、仙頭義爾さんは語る。「口コミが一番強いんですよ。安定する。しかし、その代わりそれに応えるだけの技術とサービスアフターがないと紹介しませんよね。紹介した人の信用に関わるわけだから。社員さんの質も大きいですよ。休日・夜間であっても、顧客の要望に応えられる人材が必要になります」。

同じく古くからのお得意様、日本ホワイトファーム(旧・日本ブロイラー)の当時の工場長・鈴木敏功さんはこう言う。「メンテナンスというのは休日・夜間の作業。これはもうメンテマンの宿命ですよ。それを割り切って従業員をうまくコントロールできるかは、社長の手腕にかかっています。日向中島の社員さんたちには機動力がある。新規工事にしてもメンテナンスにしても、工場を止められる期間内に必要な人員を集中させ、機械をすべて入れ替えるとかね」。

このような評価を得られたのは、義海の来配もさることながら従業員全員の協力体制による機動力を発揮してきたからにほかならない。

すべては人の“輪”

口コミで仕事の幅が広がったのも、従業員全員の協力体制が可能だったのも、人の“輪”の力によるところが大きい。義海は仕事以外の場面でも、人の輪を大切にした。たとえば創業2年目に創設された野球部。社員同士の輪を築きたかったから創ったものだ。そこに得意先の面々も加わり、ともに汗した。早朝5時から試合をこなし、そのまま出社ということもザラだったが、皆、スポーツに仕事に常に全力投球。日向地区大会で優勝し、県大会まで勝ち進んだこともある。宮崎日日新聞に写真入りで紹介されたことは、よき思い出である。義海は社外のゴルフのつきあいも大切にしていたが、いわゆる接待ゴルフとは異なる、仕事を超えた交流の場だった。

限られた狭いスペースでの作業も

県大会に勝ち進んだこともある伝統の野球部

1970-1990

第二創業期

業務の拡大に伴い、創業の地・亀崎を離れ現在の日知屋に移転して新工場を設立。食の安全を担う会社として新しいステージへとステップアップした。そして世代は代わり、創業者の思いを胸に新たな船出となった。

history 1991-1998

新工場へ移転、さらに機動力アップ！

順調な事業の成長と社員増に伴い、創業の地を離れ新天地へ。地元の雇用にも貢献した。

新しい土地で、社員は100人に

平成3年、亀崎から現在地に移転し、新工場を設立した。大きな納品物も増え、天井の低い旧工場ではすでに手狭になっていた。しかし当時この場所は、県外からの誘致企業でないと入れない工業地帯であった。そこで、米国のゴーデックス株式会社と名古屋の名豊建設株式会社との合弁で、ユー・エス・シーという新会社の形をとって、誘致企業として現在地に工場を建設できたのである。

また、雇用創出として地元日向からの採用も条件だったので、この時期社員数は一気に100人まで膨らんだ。しかしバブル的に増えた従業員数はその後落ち着き、現在では60人前後である。平成12年にはゴーデックス社の、15年には名豊建設の、それぞれの所有株式を全額買収し、現在に至っている。

広い新工場ができ、作業効率は高まった。県外出張もさらに増えた。長いときは数か月間、現場での据付工事にかかることもある。

完成した日向中島新工場の落成式

“みんながなんでもできる”がモットー

会社では“みんながなんでもできる”をモットーにしている。他社では分業化し、それぞれの分野の専門性を高めるところが多いかもしれないが、日向中島では、たとえば溶接部というのを設けていない。誰もが溶接ができ、みんなのスキルが上がっていく。それでこそ機動力が発揮できる。創業者自身が営業マンであり技術屋であったように、製造の人間も現場に行けば営業である。そしてトップダウン方式ではなく、個人個人が現場で決断できるスピードを身につけてきた。

昭和47年の南日本ハムとの取引を皮切りに、日本ブロイラー(現ホワイトファーム)など、期せずして会社は食品加工業機械・設備の製造に強くなっていった。ハムやソーセージ、鶏肉加工などのための機器の納入とメンテナンスだ。昭和56年の発酵醸造機械関連の取引開始以降は、酒や焼酎、醤油など醸造関係の仕事も増えていった。

食の安全が叫ばれるようになって久しいが、平成2年の食鳥検査制度改正(食鳥処理の事業の規制及び食鳥検査に関する法律)、また平成13年の屠場法改正によって、食肉業界はそれまでの作業工程を全面的に見直さなければならなくなった。食の安全を保つため、検査が厳しくなったのだ。するとそれまでのライン、機械を総入れ替えしなくてはいけない。日向中島にとっては、大きな仕事のチャンスだった。食肉加工の前工程・後工程の機器を製造し、据え付け工事まで行った。

history 1999-2008

社長交代、新しい時代

食品業界での信頼を得るなか、現社長・島原俊英が入社。時代の変わり目にビジネスチャンスを模索する。

「まずは好きにやってみろ」

平成11年、創業30周年の年に、現社長である島原俊英が入社する。父・義海に請われ、それまで勤めていた会社を辞めての帰郷であった。実はその少し前より、日向中島では製鉄機械や製紙機械など新しい業界への仕事にチャレンジしていたが、その取引先が倒産するなど苦境に立たされていた。だまっていても仕事が舞い込む時代は終わっていた。しかし、先に述べた屠場法の改正など、時代の変わり目にビジネスチャンスがあるのも事実だった。

平成13年、島原義海に代わり島原俊英が2代目の社長に就任、義海は会長となる。多くの社員が認めるように、義海は口で言うより行動で示すタイプだった。社長交代にあたっても、ああしろこうしろという指示はほとんどなく、好きにやってみろという態度だった。

俊英の挑戦、義海の旅立ち

俊英は、それまで外注に頼っていた設計力を高めることに力を入れた。また、それまでは素材だけ作ってすべて現地で組むという方法をとっていたが、いったん自社で借り組みして不具合をすべて調整してから現地に持っていく、という方策を始めた。この手法により、現地での工事は格段にスピードアップした。この2点の強化によって新しい仕事も増えていった。設計から据付まで一貫して頼める会社として認知されるようになったのだ。

平成19年、工場内会議室ができた。あわせて、食堂や休憩室を兼ねた厚生棟もできた。昼休みや休憩時間に、従業員がくつろぐ憩いの場だ。しかしこの翌年、義海は体調を崩す。アスベスト被害で知られる肺の病気、中皮腫だった。7月に入院し、多くの方々に励まされながら治療を続けたが、10月20日、76年の生涯を閉じた。創業から40年目のことだった。

食鳥用機械の据え付け

1991-2008

地域に育てられ、地域とともに

日向ひょっとこ夏祭り(2011年8月2日)

大王谷学園の工場見学(2014年10月9日)

日向中島鉄工所感謝祭
(2017年9月9日)

私たち日向中島鉄工所では、「地域との共生・地域力経営」をスローガンのひとつに掲げています。地域の人々とともに生かされていることに感謝し、そこに顕在する地域力を高めながら潜在する地域力を事業に生かす。地域が元気であってこそ、私たちの出番・使命が与えられると考えます。

全国的にも知られるようになった「日向ひょっとこ夏祭り」には、社長以下、社員の有志で参加しています。ひょっとこ、おかめ、きつねになって市中を練り歩き、地域の皆さんと熱気を分かち合います。また、日向市立大王谷学園からは学生さんたちの見学を受け入れています。実際の作業を見て体験してもらうことで、ものづくりに対する興味、働くということ、地域で生きるということについて考えてもらうきっかけになればうれしいです。

2017年９月には、初めての感謝祭を開きました。協力企業の皆さんや社員の家族、地域の方々を会社に招き、日頃の感謝の気持ちを込めたイベントを行いました。マグロの解体ショーやうなぎのつかみどり、屋外バーベキューなど、すべて社員の手づくりの企画です。

私たちはこれからも、地域とともに未来へ向かって歩み続けます。

The history of 10years

10年のあゆみ

From2008.10-2019.4

The history of 10 years

第41期-43期

From2008.10-2011.9

レーザー加工機設置
当時最新機械の導入として、日向市内は元より、県外からも注目の機械です。

41期 2008.10-2009.9

2008.10.20
会長・島原義海 逝去

2009.1.28
ISO:9001／2008 取得
品質向上と、システムを構築するために、ISO:9001(品質マネジメント)を取得しました。更なる品質向上の第一歩の始まりです。

2009.4.1
40周年記念謝恩会開催

会長逝去半年後に開催された40周年記念謝恩会でしたが、悲しみの中にも未来を目指す姿勢に、社員一同感極まった1日でした。

42期 2009.10-2010.9

2009.11.1
レーザー加工機設置

2010.2
40周年記念誌発行

2010年2月1日に40年史を発行。40周年までの、会社の歴史・流れ・仕組みが全て入った一冊になりました。

2010.3.11
㈱山田製作所様／
山田社長 来社・講演

2010.4
東日本大震災
復興支援ボランティア参加

2010.9.1
「ひょっとこかわら版」開始

会社ホームページ上にて、社員のブログを掲載するコーナーを設けたのが「ひょっとこかわら版」です。社員の些細なツイートをお楽しみください。

43期 2010.10-2011.9

2011.4.1
営業技術部、
営業・設計合併

2011.9
全国溶接競技会宮崎予選
日向地区大会／
アーク溶接の部
弊社社員 優勝

日本の世界のできごと

2009

1.20 第44代アメリカ大統領に、オバマ氏就任
3.22 第2回WBC(ワールドクラッシックベースボール)日本V2達成
5.21 日本で裁判員制度 導入
6.25 マイケル・ジャクソン氏 逝去
●トヨタ プリウス ヒット
9. 民主党政権誕生
9.6 イチロー メジャー 米通算 2,000本安打 達成
●NHK大河ドラマ「龍馬伝」がヒット
11.2 ダイソン社 エアマルチプライアー、発売開始

2010

2.12-2.28 冬季 五輪 「バンクーバー」開催
●「もしドラ」が ヒット
6.11-7.10 FIFA W杯 「南アフリカ」大会 開催 日本イレブン ベスト16入り
6.13 小惑星探査機 「はやぶさ」が、地球に帰還

2011

2.26 任天堂 「ニンテンドー 3DS」発売
3.11 東日本大震災
7.17 FIFA 女子W杯 「なでしこジャパン」 初優勝
7.24 地デジ放送に完全移行

■41-43期のおもな製品・工事

自動搬送設備

製麹室

食品農産加工機

食鳥冷却機

食肉処理設備

From2008.10-2011.9

The history of 10 years

第44期-45期

From2011.10-2013.9

東臼杵郡門川町に「ひむか野菜光房」を作りました

2011.11.5 日向市政施行60周年表彰

2011.12 黒木直人「製缶技能士 2級」合格

2012.1.19 会長夫人 逝去

2012.6 ひむか野菜光房 設立

2012.4.1 第44期・レクレーション

第44期の創立記念日（2012年4月1日）に、親睦を深めるため、社員全員でボウリングを行いました。

2012.9 全国溶接競技会宮崎予選日向地区大会／アーク溶接の部、黒木直人 優勝

2012.9.10 かぎん環境格付認証

2012.12.19 第45期・消火訓練

2013.3.15 黒木裕章「1級機械保全技能士」合格

2013.3.29 野涯達也「2級管工事施工管理技士」合格

2013.4.1 技術委員会立ち上げ

2013.5.22 栗城史多氏 講演会（ひまわり工業会）

ひまわり工業会10周年記念事業として、登山家・栗城史多氏の講演会を、日向市中央公民館にて入場無料で開催しました。

2013.6.8-11 社長 ベトナム視察

2013.8 太陽光発電装置稼働開始

2013.9.15 旧工場クレーン追加設置

年末の大掃除の日に合わせ、消火訓練を行いました。皆さん真剣に取り組んでいました。

2011.10-2012.9 44期

2012.10-2013.9 45期

2011
- 「きゃりーぱみゅぱみゅ」が流行

2012
- 5.22「東京スカイツリー」が開業
- 7.22-8.12 夏季五輪「ロンドン」開催
- 11.7 レスリング 吉田沙保里、「国民栄誉賞」受賞

2013
- 5.5 長嶋茂雄&松井秀喜が、「国民栄誉賞」受賞
- 6.26 富士山「世界文化遺産」に登録
- 8.9 田中将大 開幕 16連勝の記録達成
- 9.8 2020年 東京オリンピック 開催決定
- 10.15 JR九州 豪華寝台列車「ななつ星 in 九州」運行開始
- 「ふなっしー」ヒット

日本の世界でぎごと

■44-45期のおもな製品・工事

食鳥搬送コンベアー

石炭船SUL設備

宮崎大学 太陽光集光装置（ヘリオスタット）設置

ロータリーフィダー製作

セパレーター（水と不純物を分離）

From2011.10-2013.9

The history of 10 years

第46期-47期

From2013.10-2015.9

2014. 10.9
第47期·
レクレーション

2014. 9.
パレットチェンジャー設置

47期
2014.10-
2015.9

2014. 8.29
MRT（宮崎放送）
「みやざき未来キッズプロジェクト」の取材
「みやざき未来キッズプロジェクト」の取材にて、日向市の取組みである、「企業による出前授業」と同様のロケットの打ち上げを行いました。

2014. 8.7
全国溶接競技会宮崎予選日向地区大会／
アーク溶接の部·半自動溶接の部、
黒木直人 ダブル優勝

2014. 3.13
長友伸一郎「2級機械保全技能士」合格

2014. 1.27-30
アトランタ展示会 視察

2014. 4.5
第46期·レクレーション

第46期の創立記念日に、避難訓練と救急蘇生法を学びました。日向市消防署職員の方の指導の下、AEDの取扱い等を学びました。

2013.10-
2014.9

46期

2013. 10.4
児玉慎一
「2級仕上げ
（機械組立作業仕上作業）
技能士」合格

2015. 4.4
第47期·レクレーション

2015. 4.1
「未来プロジェクト」発足·
委嘱状交付

2015. 1.14
「平成26年度 第59回 宮崎県溶接競技会宮崎大会／
アーク溶接の部、弊社社員 優勝

現社長になって初めての、溶接コンクール県大会アーク溶接の部での優勝者になりました。

「未来プロジェクト」発足·委嘱状交付
第47期 創立記念日に、4年後の50周年に向けた企画立案等の活動を行う「未来プロジェクト」が発足し、委嘱状の交付を行いました。

2014
2.7-23 冬季五輪「ソチ」開催
3.31「笑っていいとも！」放送終了
4.1 消費税5%から8%に増税
6.28-7.12 FIFA W杯「ブラジル」大会 開催
●「アナと雪の女王」ヒット
●田中将太 メジャーデビュー
9. 錦織 圭 全米オープンで、東洋人初の準優勝
9.10 Apple iPhone 6 発売開始
9.27 御嶽山 噴火

2015
3.14 北陸新幹線 開業
4.24 スマートウォッチ「Apple Watch」発売開始
7.5 FIFA 女子W杯 準優勝
7.29 Windows10 無料アップグレード 開始
●「ドローン」ヒット
9.20 ラグビー W杯 南アフリカに日本チーム勝利 、「五郎丸ポーズ」が流行
10. マイナンバー制度、開始

日本の世界 どぎごと

■46-47期のおもな製品・工事

自社製品／
バイオマス 温風機
試作製品完成

製麹装置の円盤

製麹室

フェザー処理装置

From2013.10-2015.9

The history of 10 years

第48期–49期

From2015.10-2017.9

宮崎中小企業大賞 受賞
「地域資源活用の視点」という
テーマで「宮崎中小企業大賞」
をいただきました。

2016. 10.22
第49期 経営方針発表大会

2017. 1.6
平成29年度 安全祈願式

2017. 8.25
全国溶接競技会
宮崎予選日向地区大会／
アーク溶接の部、黒木直人 優勝

2017. 6.24-29
社長・重黒木室長
USA シアトル 視察

2017. 9.16-21
社長・長友優弥
USA シアトル視察

2017. 9.9
「日向中島感謝祭」開催

2017. 4.15
「人事考課制度改訂プロジェクト」発足

2017. 4.3
第49期・レクレーション

2017. 4.1
「経営企画室」「企画開発室」発足

2017. 2.23
「ちとえ藤堂塾 in ひむか」開始

49期
2016.10-
2017.9

2016. 4.4
中国研修生植樹式
外国人研修生受け入れを開
始、日本語の習得とともに、
資格の取得、技術面の指導
にも取り組んでいます。

2016. 9.29
富井雅史
「製缶技能士 1級」合格

2016. 8.29
全国溶接競技会宮崎予選
日向地区大会／
半自動溶接の部、片桐健男 優勝

2016. 5.31
全国溶接競技会九州大会（熊本）／
アーク溶接の部、黒木直人 出場

2016. 4.2
第48期・レクレーション

2015. 10.27
宮崎中小企業大賞
受賞

2015. 12.7
UMK（テレビ宮崎）
「みやざきゲンキTV」の取材

2015. 10.24
工場レイアウト・
機器位置変更

48期
2015.10-
2016.9

2015. 10.21
第48期・
経営方針発表大会

2015. 11.19
「日向ヤングマイスター」
第1号、弊社社員 受賞

第48期・経営方針発表大会
2001年に開始して以来、毎年継続しています。

社長・重黒木室長
USA シアトル 視察

シアトル スペースニードルからの眺望。経済
成長を続けるアメリカ合衆国のシアトルは、食・
環境・エネルギーの3要素の点で最先端です。

第49期 創立記念行事の
一環（未来プロジェクト企
画）で、「日向サンドーム」を
貸し切り、運動会を開催し
ました。

2016

2.2 清原 和博「覚せい剤取締法違反」で逮捕
●「ポケモン GO」ヒット
●ピコ太郎の「PPAP」がヒット
6.15 イチロー 日米通算 4,257本安打達成。ギネス世界記録に認定
4.28「アイコス・iQCOS」発売開始
8.5-21 夏季五輪「リオデジャネイロ」開催
10.20 レスリング 伊調 馨 五輪 V4で「国民栄誉賞」受賞
12.31 SMAP 解散

2017

1.20 第45代 アメリカ大統領にトランプ氏就任
1.23「稀勢の里」19年ぶりに日本人横綱に昇進
6.26 藤井 聡太 4段 29連勝
9.9 桐生 祥秀100M走で、日本人初の9秒台
「9秒98」タイム更新
9.20 安室奈美恵 引退発表
9.22 AppleからiPhone 8, iPhone Xが発売

日本と世界のできごと

■48-49期のおもな製品・工事

フリーザー入替に伴う包装機
レイアウト変更工事

食肉加工ライン

きびオリゴ糖生産ライン

From2015.10-2017.9

The history of 10 years

第50期-51期

From2017.10-2019.4

第50期
経営方針発表大会

ベルテクネ㈱、
㈱矢野特殊自動車
第1回目 会社訪問

企業ドリプラとしての参加でしたが、アメリカ・シアトルの視察から学んだことも影響しているのでしょう。タイトルは、「ソーラーレストラン」。

50期 2017.10-2018.9

2017.10.7-16
社長 欧州視察

2017.10.27
第50期
経営方針発表大会

2017.11.9
㈱九州タブチ様 国分工場
会社訪問

2017.12.14
ISO:9001 2008 ⇒
2015に移行審査認定

2017.12.22
ベルテクネ㈱様、㈱矢野特殊自動車様
第1回目 会社訪問

2018.1.1
「高橋学校」
設立

2018.1.19
第50期・信念会

2018.2.18
第6回「ドリームプラン・プレゼンテーション 宮崎大会 2018」に、長友優弥さん、企業ドリプラとして参加。

2018.3.1-
FTA様の仕事で、吉村主任・大村竜馬 2名、中国出張

2018.3.29
「ちとえ藤堂塾 in ひむか 2018」開始

2018.4.1
第50期・レクリエーション

2018.4.19
経営革新計画承認

2018.5.12
避難訓練
（永江防災タワーに避難）

2018.6.27
㈱九州タブチ様、
来社

2018.6.29
平成30年度安全推進大会

2018.7.18
㈱九州タブチ様の
「自主研発表大会」に、出席

2018.8.24
「日向中島 OB会」発足

2018.9
社員持株会 発足

51期 2018.10-2019.9

2018.10.6-14
社長 欧州視察

2018.12.4
健康宣言優良事務所
認定

2018.12.25
地域未来牽引企業 認定

2019.4.1
創立50周年

2019.4.5
50周年
記念事業
（式典）

From2017.10-2019.4

■50-51期のおもな製品・工事

無電解メッキ装置

避難訓練
近くに出来た「永江防災タワー」で、避難訓練を行い、帰りにはゴミ拾いも行いました。

平成30年度
安全推進大会

「日向中島 OB会」発足
創立50年に間に合いました。

日本の世界のできごと 2018

2.8-25 冬季五輪「平昌」開催
●大谷翔平、メジャーデビュー
5.21 栗城 史多氏 逝去
6.12 米朝首脳会談
7.6「オウム真理教」麻原死刑囚他、死刑執行
9.10 全米オープン「大坂なおみ」優勝
9.16 安室奈美恵 引退

Hyuga Nakashima PRIDE

6部署すべてが己のプライドにかけて、50年の信頼を未来へつなぐ

技を磨く。

それは、単なる仕事上のスキルアップにとどまりません。その過程で尽くした努力は心を鍛え、目標へと向かう志は生き甲斐につながります。つまり技を磨くとは、人として成長するということ。そこに終わりはないのです。

加速しつづける技術を背景に、ものづくりの世界は進化の一途をたどります。時代に応えて、どこまでも伸びる。そんな技術力と発想力、そして根底を支える人間力がいま、試されているのです。

こうした時代の要請に応えられる人材が、日向中島鉄工所で育っています。これまでの経験と、これからの希望とを胸に、ビジョンを描き、カタチに変える。この創造力と想像力が、Hyuga Nakashima PRIDE。それぞれの部署が己のプライドにかけて役割を果たし、手を取り合って仕事をまっとうしています。

Production Department

General Affairs Department

Planning and Development Office

Sales Engineering Department

Corporate Planning Office

Sales Engineering Department Design Section

企画開発室

Planning and Development Office

独自の技術開発で、地球規模の課題に挑む

私たちが拠点とする宮崎県は全国有数の農業県です。「食」が抱える課題は、「環境」や「エネルギー」の問題とも密接に関連し、地域はもちろん県や国の枠を越えて取り組む必要があります。そんな状況のなか、いま企画開発室が取り組んでいるのは、低温調湿技術を用いた装置やバイオマス燃料の開発です。特に野菜や果実の長期保存を実現させる低温調湿技術は、日向中島がこれまで培ってきた技術の応用で開発が進展。県とも共同で研究を進め、全国からも関心が寄せられています。第一次産業から見える大きな課題に、日向中島は技術力で貢献しようと奮闘中です。

営業技術部 設計課

Sales Engineering Department Design Section

使命は、お客様が求める唯一無二の機械をつくること

こんな装置をつくってほしい。お客様からの依頼は、実にさまざまです。そんなご要望に的確に応えるため、打ち合わせを重ね、仕組みを考えて計画し、図面を起こす。それが、設計課の役割です。そのため、いままでにない唯一無二の仕組みを発案することもしばしば。しかも正解は一つとは限りません。本当にそのやり方でいいのか。見落としはないか。時間とのせめぎ合いのなか、アイデアを製造部と共有し、製品の完成をめざします。できあがった製品がニーズを満たしているか、評価をするのはお客様自身。私たちは良い製品を作る為に全力をつくします。

営業技術部

Sales Engineering Department

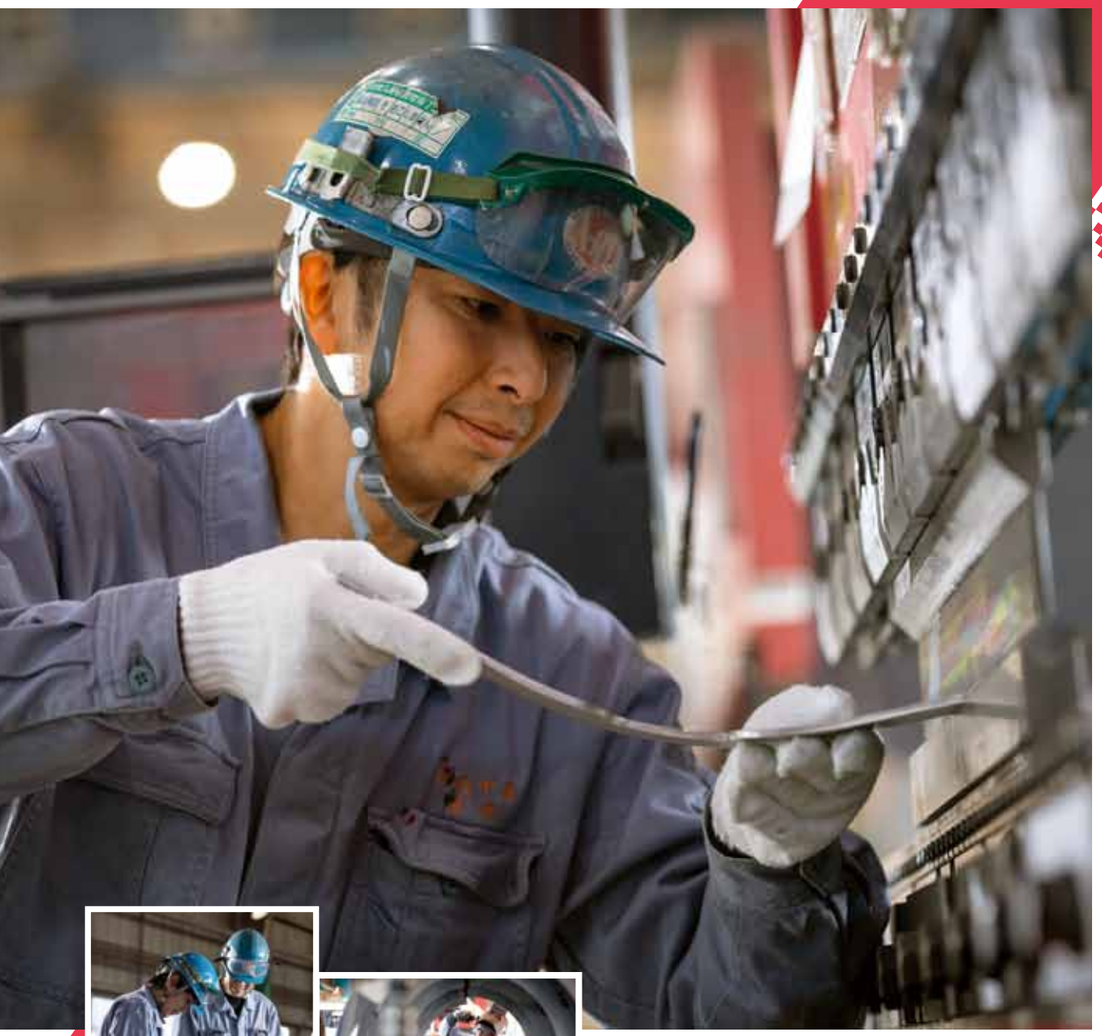
「日向中島に頼んでよかった」この声こそが仕事の原動力

日向中島の強みは、設計から製造、設置、管理まで、一貫した体制がとれる点にあります。一つのプロジェクトを進めるにあたっては、部署間が緊密にコミュニケーションを取るため、よりよい製品づくりが可能になり、その後のフォローもスムーズになります。この連携があるからこそ、営業技術部が責任を持ってお客様に提案できるのです。特に食品の処理ラインにかけては、長年のノウハウがあるため信頼も厚く、全国から依頼が舞い込みます。お客様に喜ばれることが、私たちのプライド。日向中島に任せてよかった。そんなお声こそが、私たちの誇りです。

製造部

Production Department

ものづくりの奮闘も、喜びも、現場にこそある



図面をもとに、鉄やステンレス、アルミなどの素材を加工し、溶接して製品を生み出す。それが製造部の仕事です。その製品のほとんどは、オーダーメイド。お客様のニーズに合わせた一点ものであるため見本がなく、しばしば課題にぶつかります。そんなとき頼りになるのは、経験に長けた技術者の存在です。製造部の仕事はチーム力が勝負。だからこそ、ベテランと新人がコミュニケーションを重ね、知恵とアイデアを出しあい、協力しながら工程を積んでいきます。そのため、製品が完成したときの達成感はひとしお。技術も想いも次世代に引き継ぎ、ものづくりの喜びを実感できる現場が、ここにあります。

経営企画室

Corporate Planning Office

企業としてのポテンシャルを伸ばし、向上心あふれる未来へ

企業が自社のことだけを考える時代は終わりました。これからは、地域貢献や地球環境など広い視点で企業運営をとらえる必要があります。こうした企業の経営品質を向上させるための部署が、経営企画室です。国際的な品質マネジメントシステム「ISO9001／2015」の認証を得ている日向中島では、省エネや資源化に向けた対策を推進。取り組みを加速させるために、人材育成にも力を注いでいます。しかもその対象は社員にとどまりません。小学生のための出前授業から生涯学習にいたるまで、このまちで地域のみなさまとともに成長するためのベースづくりを進めています。

総務部

General Affairs Department

社員の笑顔を見守り、職場環境を支える縁の下の力持ち

実務に加え、心の面からも社員をサポートする総務部の配慮は、朝礼からはじまります。社員一人ひとりの個性を認め、顔を見て声を聞いて体調を気遣う。そして働きやすい職場をつくるために、トップと社員との橋渡し役となりスムーズな意思疎通を支えています。こうした役割を果たしながら実務もおこなうため、自身の勉強を欠かしません。社外の研修会でも学び、スキル向上と職場環境づくりに生かしています。現在、男性が多い職場ですが、これからは女性の活躍こそが企業成長のカギ。そのためにも、コミュニケーションを大切にしています。

Dream making project

夢創りプロジェクト

100年企業づくりのための基盤づくりと人材育成

プロジェクトに込めた想い

100年続く企業とは、どんな企業でしょうか。50年目を迎える私たちは、そんな問いを自分たちに向けながら、100年続く企業となるためのプロジェクトを始動しました。

社員の成長度をわかりやすく評価し、リーダーを育成するための「人事考課プロジェクト」、経営計画を策定し後継者を育てる「100年企業ビジョンプロジェクト」、熟練社員から次世代へと技術を伝承する「匠プロジェクト」。この3つを「夢創りプロジェクト」として取り組んでいます。また、プロジェクトとは別に、安全衛生委員会、5S（整理、整頓、清掃、清潔、しつけ）委員会、改善委員会、技術委員会という常設委員会を設け、働く人の健康づくりや決めたことを守る社風づくり、効率的で働きやすい職場づくりにも目を向けています。これらの活動を通して、タテとヨコのコミュニケーションが生まれ、主体的に行動する社員が育ってきています。

MFE HIMUKA
SINCE 1969

Personnel appraisal revision

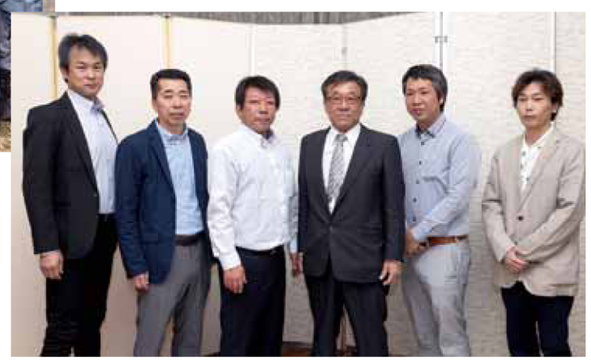
人事考課改定プロジェクト

project

評価基準をわかりやすく、成長を促す人事考課を

活動内容

現在も人事考課表を使用し、社員の考課を行っているのですが、その考課方法の見直し及び修正をみんなで考えています。修正するにあたって、一期メンバーを社員の中から選抜し、新しい人事考課表の作成から取りかかりました。まずは個別になっていた効果基準をわかりやすくひとつにまとめるところから始めました。そこからメンバーを中心に会社全体で協力し合い、素晴らしい人事考課表が完成しました。それを元に、考課する側の二期メンバーは、新たな考課方法の訓練を行っています。来期には、本人と面談をしながら、新たな人事考課表を使って査定を行っていくことを目標に、活動を行っています。



100 year corporate vision

100年企業ビジョン プロジェクト

project

経営計画の作成や、次世代リーダーの養成を

活動内容

私たちのプロジェクトでは、会社の事業計画づくり、次世代を担うリーダーの育成などを目的として活動しています。まずは、売り上げの計算、財務や決算書の見方などを学ぶところから始めました。現在、事業計画策定を対象とした後継者研修の位置付け、次世代のリーダーとして習得しておく必要のある事柄やリーダーのあるべき姿を学ぶ機会を設けることなどに取り組んでいます。最終的には、自分たちで考えた事業計画書を作成し、中期５ヶ年計画が今後の日向中島鉄工所の未来をイメージ化できるものになることをゴールとします。そして、後継者となりうる人財の成長をはかれるような計画を立てていきたいと思います。

Artisan

匠 プロジェクト

project

教育プログラムを作成し、熟練の技を次世代の社員に伝承

活動内容

先達の今までの製作技術、現場工事等での経験を次世代に残すためにプロジェクトです。現状は、作る人によって品質や製作する時間に個人差があります。そこで、品質を上げ、製作時間を均一化し、誰でもどの仕事でもこなせるように作業マニュアルを作成します。まずは１～５年の経験者に、知っていること、知りたいこと、必要な知識・技術は何かを聞き、新人教育プログラムを作成することにしました。プログラムを作る上では、熟練工達の意見を活かし、技術・知識を残していくことを重要視しました。今後は、会社全体のコミュニケーションを円滑にできるようにし、熟練社員のノウハウを次世代の社員に伝承させるための土壌作りをすることが、匠プロジェクトの目標です。

50th anniversary project

50周年プロジェクト

2019年４月１日の創業50周年にあたり、５つのプロジェクトが始動。
社員一丸となって取り組んでいます。

プロジェクトに込めた想い

2019年４月１日に、日向中島鉄工所は創業50周年の節目を迎えます。現在我が社では「100年企業づくり」をスローガンに掲げていますが、その折り返しとなる50年の節目は、とても重要な意味を持ちます。

そこで、会社のブランド力を上げる「ブランディング」、職場環境を整え社員・家族の幸せを実現する「福利厚生」、社員同士の親睦をはかり絆を深める「社員旅行」、支えてくれた方々への感謝を表し次代につなげる「記念式典＆記念誌制作」、地域への感謝と地域での存在意義を高める「地域貢献」の５つのプロジェクトに分かれ、全社員がいずれかのプロジェクトに属して、一丸となって取り組んでいます。

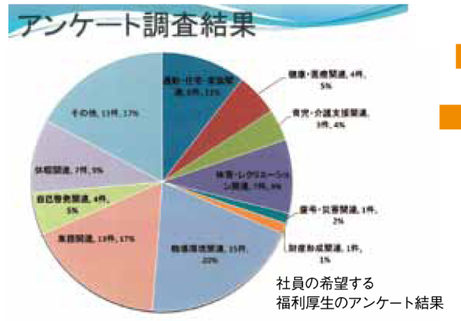
これまでの50年をふりかえり、これからの50年に想いを馳せるさまざまなプロジェクトが、2019年カタチとなります。

Employee benefits project

福利厚生プロジェクト

50周年プロジェクト

ワーク･ライフ･バランスを追求し、社員も家族も幸せに



社員の希望する
福利厚生のアンケート結果

活動内容

社員みんなが楽しく、気持ちよく仕事ができる――そんな職場にしていくためにどのような福利厚生が良いか検討してきました。まずは社員の意見収集からスタート。①働きやすい・働きがいのある会社、②社員に活気のある会社、③自分らしく成長していける会社、④社員同士・家族とのつながり・時間を大切にする会社、⑤経営が安定し安心して生活が出来る会社――誰もが、充実した仕事と家族との時間の調和のとれた生活を望んでいます。私たちのプロジェクトは、職場環境を良くし、社員のモチベーションが上がることにより生産性の向上に繋がることと、社員と家族の幸せを追及し続け、実現に繋げることで、より良い企業を目指していきます。

社員と家族の幸せの追求と その実現に向けて

会社の業務上、休日や連休に現場への出張工事などが多くあります。でも従業員には、休日は家族との時間を取りたいという方もたくさんいると思います。私たちは、そんな家で待っている家族にも喜んでもらえる制度のある会社にします。

福利厚生プロジェクトリーダー

Company trip project

社員旅行プロジェクト

50周年プロジェクト

みんながワクワク・ドキドキする旅行で絆を深めよう

活動内容

50周年を迎えるにあたって、「感謝の想い」を形にすることを目的とし、節目の事業の一つとして社員旅行プロジェクトを立ち上げました。みんながワクワク・ドキドキする旅行を企画提案していくプロジェクトです。社員旅行は、社員のコミュニケーションを活性化させ、信頼関係を築き、仲間との団結力や一体感を強化する貴重な機会になります。これまでの慰労と、これから先の組織の活性化に繋がる社員旅行を計画したいと思います。旅行という同じ体験を通し、互いの人間性に触れ、楽しい思い出を作り、絆を深めましょう。みんなが喜ぶ旅行を計画し、期待に応えていくのは大変な部分もありますが、このプロジェクトよって得られる経験と学びは大きな財産となり、メンバーと会社の成長に繋がると思います。

ハクナマタタ

女性中心の月１回の定例会はとてもポジティブで次から次にいい提案が浮かび、旅行がますます楽しみになりました。それは、一人ひとりが役割を持ち、助け合ったおかげです。目を閉じて！沖縄の青い空、透き通った海、潮風を感じてください。思い出に残る楽しい社員旅行にしましょう。

社員旅行プロジェクトリーダー

Memorial ceremony & Commemorative publication project

記念式典&記念誌プロジェクト

50周年プロジェクト

「感謝の想い」をカタチにして伝えるために

活動内容

私たちのプロジェクトは「感謝の想い」を形にすることを目的として発足しました。50年という歩みの中、会社が継続してこれたことは、従業員の力はもちろん、支えていただいた家族、お客様や地域の方々の助けがあってこそだと感じ、感謝の想いが溢れます。そこで2019年４月5、6日に、記念式典及び創立記念行事を計画しました。来賓、お客様、協力業者様、ご家族を招き、盛大に行うために、プロジェクトメンバーが主体となって準備を進めています。また、「何回でも開きたくなる記念誌」をテーマに、製作会社である鉱脈社様のご協力のもと、現代のPC技術を使用した珍しい記念誌を発行するための準備を進めています。50年の歩みを辿り、未来への架け橋となるよう想いを込めて、みんなの笑顔が溢れる企画に向け活動しています。

歴史と未来 ―誇りを胸に

我が社に関わっていただいている多くの方々を招いて行う式典の準備・運営や、先輩方のご苦労や私たちの歴史を残す記念誌の作成は大変な部分もあります。この活動を通して、これから私達が100年企業を担っていく上で、我が社を支えてきた多くの方々への感謝とともに自社への誇りや覚悟・自信を持つことができると思います。

記念式典&記念誌プロジェクトリーダー

Regional contribution project

地域貢献プロジェクト

50周年プロジェクト

地域貢献の喜びと自社への誇りが事業の原動力に

活動内容

地域貢献プロジェクトの目的は、50周年という節目を迎えるにあたって、地域に対する感謝を表し、地域での我が社の存在意義を高めることです。これまで積み上げてきたものづくりの経験・技術を生かし、我が社だからこそできることを企画・提案していきます。そこで2019年４月以降、計画的にみんなで考えた地域貢献活動を行います。今までお世話になった地域の方々と一緒になって地域を盛り上げる企画をすることで、地域社会と信頼関係を築くとともに、地域貢献の喜びと自社への誇りを改めて強く感じとることができると考えます。これからの活動を通じてもたらされる従業員の柔軟な発想や働く意欲の増加などが、会社のさまざまな事業を支える原動力となるでしょう。

地域の中の企業、社員の成長を目指して

50周年という節目に立ち会うことができ、たいへんうれしく思います。地域貢献というのは経営の柱だと考えています。会社のPRも必要ですが、この活動をすることで社員全員が成長することを願っています。

地域貢献プロジェクトリーダー

Branding project

ブランディングプロジェクト

50周年プロジェクト

社員全員が同じ方向を向くための指標づくり

これからも宮崎・日向と共に。

MFE HIMUKA
SINCE 1969

Machinery,Facility & Equipment
〈機械、設備、装置〉の、メーカーである。

Mechanical Fabrication & Engeneering
〈機械、製造、およびエンジニアリング〉の一貫した機能を
強みとしたモノづくり企業である。

Miyazaki Food,Energy & Environment(or Ecology)
〈宮崎の食と、エネルギーと環境〉を、事業ドメインと捉え、
モノづくりの技術・ノウハウを活かして、
メーカーとして新たな分野に挑戦をしていく。

そして、「HIMUKA」とは、「筑紫のひむかの橘の小戸の阿波岐原」と、神道の祝詞（のりと）にもあるように、古事記以来使われている宮崎を表す言葉であり、現在は、宮崎県北地域を表す地域名となっている。ひむかの地から、世界に発信をしていきたい、との思いを込めている。

活動内容

私たちのプロジェクトでは、先人達が積み重ねてきた我が社の強みを明確にし、100年企業を目指すにあたって社の方向性を浸透させ、全員が足並みを揃えるために活動しています。会社への夢、希望、誇りを持って仕事の充実感を得ることにより、自主的に取り組める社風が大切と考えます。現在、社名変更、ロゴマーク・企業カラー・キャッチコピー・作業着・ヘルメットの新規選定に取り組んでいます。なかでも社名変更を最重要課題として時間を費やしました。現在の社名の由来や創業者の思いなど複雑な絡みの中で立ち止まることもありましたが、50周年という節目に携われることに幸せを感じ、メンバーの思いを経営幹部にプレゼン。改めてみんなこの会社が大好きなんだと気付かされました。地域や業界でなくてはならない企業を目指し、変化を恐れず成長できる企業を目指します。

“変わる”ではなく、“変える”

当初は社名変更に賛同しないメンバーもいましたが、回を重ねるうちに意識が変わり、自分達の会社として自覚が芽生えました。やらされて仕方なく行動するのと、自主的に行動するのとでは達成感が違います。これが個人の経験と財産になります。“変わる”ではなく、“変える”を念頭に、これからも進めていきます。

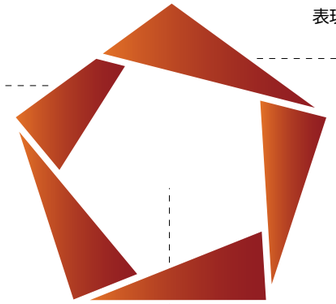
ブランディングプロジェクトリーダー

挑戦と情熱の赤

静かに、着実に業務を遂行する。
中に秘めた情熱を、
カラーで表現しています。

重なり、調和する。5つの理念。

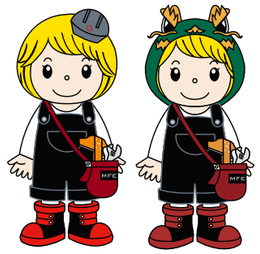
五角形は邪気の入り込む隙間のない、
完全な形とされています。
五角形の頂点は５つの経営理念を
表現しました。



未来、そしてこれから願い

重なり合い、調和の取れた枠組み。
その中央を空けているのは、未来が見通せるようにとの願いを込めました。

イメージキャラクター
「ひなた（日向）ちゃん」



社歌 「ひむかの力」

AR・360度カメラコーナー 動画や画像でご紹介

ARの見方

COCOAR2（ココアル2）は、スマホやタブレットに収めた画像を認識し、動画や画像などを閲覧できる無料アプリです。iOSをご利用の方は、AppStoreより、Androidをご利用の方はGooglePlayより「COCOAR2」と検索するか、上記QRコードからダウンロードサイトにアクセスし、アプリをダウンロードしてください。

※動作環境：iOS 7.X以上/Andoroid 4.X
※マーカーを認識する速度や動画などを安定した
再生は、端末の仕様や通信環境に左右されます。

ダウンロード App Store

ダウンロード Google Play

360度カメラ

スマートフォンを使って、QRコードから
工場内を見渡すことができます

AR

社歌

理念

歴史～未来

50年後のMFE HIMUKA

ソーラーレストラン

いつかは建てたい!!
こんな建物

社宅に利用するマンションと、厚生棟を有し、地域に開放された自給自足のレストランやバー・サウナ・ジャグジーが設置されたスポーツジム、保育園なども併設されている。更には、技術者を育てる学校の建設も予定されている。

1 事業拡大

日向本社工場以外に、東北工場・関西支店・東京営業所まで拡大し、社員数100名を超える企業へと発展!!

2 海外研修

海外研修は、弊社の製品が設置されているベトナムへ行く！

3 新バイオマス燃料

宮崎にバイオマス発電所が乱立する中、当社が地域コミュニティーを巻き込んで、新バイオマス燃料で安定した価格と供給体制を作り出し、宮崎の園芸農家の経営を改善して若者の農業参入が増加!!

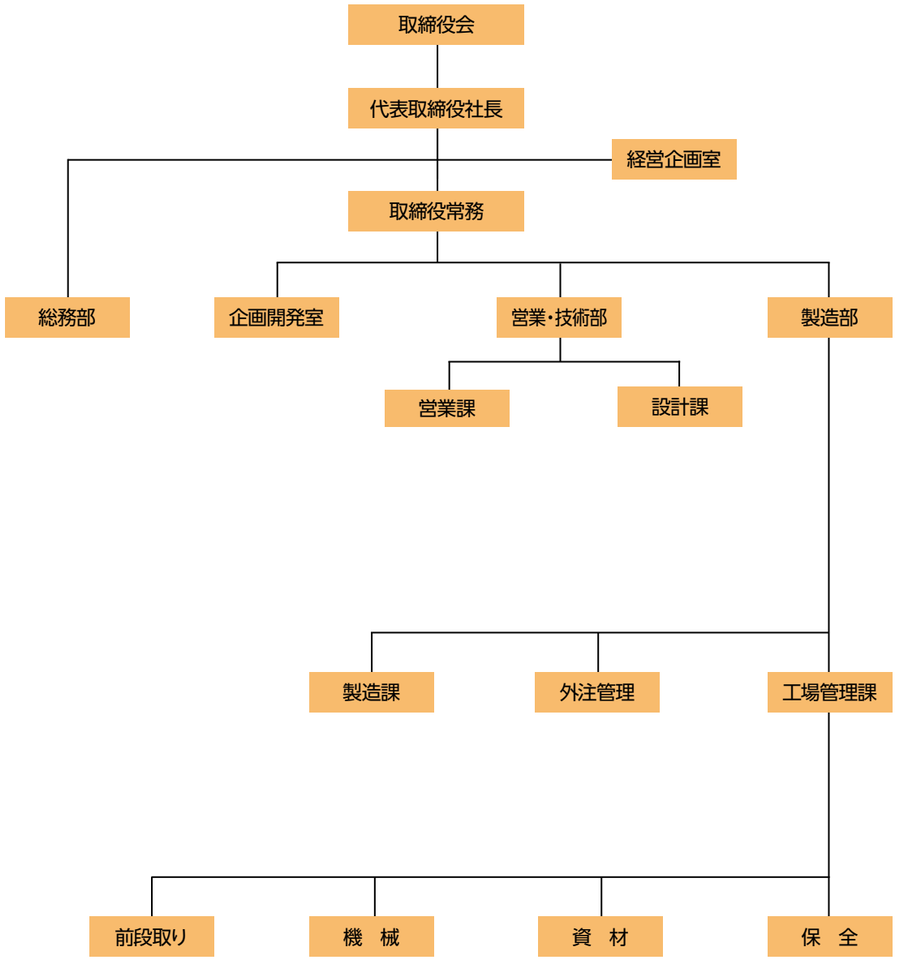
4 工場増設

日向本社工場は、従来の工場では手狭になり、機械設備として、タレパン、レーザー溶接機、精密加工機やロボット等を有した工場を増設し、生産性が従来と比べて２倍になり、模範的な工場として、海外からも視察が訪れている。

そんな会社になっています!!

第51期
2019年4月1日～

株式会社 MFE HIMUKA 組織表



MFE HIMUKA
SINCE 1969

編 集 後 記

創立50周年を迎え、記念の一環としてこの社史を発刊いたしました。

昭和44年4月創業、６名でスタートして以来50年を迎えました。弊社の創業者は50年前、当時の一般的な企業にはない斬新な経営哲学で、独自の経営理念をもって経営を行い、お客様の期待と信頼にこたえ続け、会社を成長・発展させてきました。

企業の寿命は30年、99.8%が30年以内に消滅すると言われている中、時代の風雪にたえ50年もの長きにわたり存続・発展し50周年を迎えることができましたことは、多くの先輩社員の方々、顧客お取引様、協力企業様、支援機関、行政などなど、様々な方々のご支援とご協力のおかげで多くの雇用を作り出し、地域や業界の発展に寄与することができました。改めて感謝申し上げます。

100年企業づくりのための基盤づくりと50周年の記念事業の一環として、長さ60m・幅25メートルの工場増設を行いました。さらなる生産能力を高め、コストを削減し、短納期・高品質の製品をお客様に提供できる体制も整いつつあります。

また新たな50年に向けてのスタートとするために、人間力や創造性を発揮できる人財を育てるために、夢創りプロジェクトと称して、未来PJ（50周年プロジェクト）、人事考課PJ、100年企業ビジョンPJ、匠PJと４つのプロジェクトを立ち上げ、理念やビジョンの見直し、CIやブランドづくりの検討を進めてまいりました。

100年企業へ向けて、一人ひとりが主体的に考え、行動し、一体感を持って、より良い会社づくりに取り組み、地域や業界の課題に積極的に参加し、地域や社会から必要とされ、頼りにされ、社員全員が自身と誇りをもって働く会社になることを願って、社名もMFE HIMUKAに改名し新たなスタートをきり走り出しました。

50周年を迎え、100年企業を創っていくのは社員一人ひとりの力です。機械の製造や据付という本来の業務と同じように、大切なことは私たちの会社組織をよりよくしていくための全員参加の取り組みです。50周年を機に100年企業に向けて、どんな経済環境の変化や困難にも負けずに強い思いと信頼と責任感によって、強靭な会社を作って新しい時代を切り開いていきましょう。

２年前に記念誌プロジェクトを立ち上げ、社員10名の編集委員によって編集作業を行ってまいりました。なにぶん、各委員が不慣れなため不十分な所が多々ありますが、編集にあたり資料の提供など多くの方々のご協力により、この度50年史発刊にこぎつけることが出来ましたことを、委員一同感謝しております。同時に、当社の今までの足跡を皆様にお伝えすることができましたこと、大変光栄に存じます。なお、出版にあたっては鉱脈社の皆さんにお世話になりました。心よりお礼申し上げます。

50年の歴史を振り返り、先人のご苦労に感謝するとともに、現役世代としては学ぶべき考え方や教訓を経営に生かして、将来の発展につなげていかなければと決意を新たにする次第です。そして、永遠の繁栄を願い、編集後記といたします。

2019年4月吉日
取締役常務　山本　朝義

株式会社
日向中島鉄工所

50年史

HYUGA NAKASHIMA
50th anniversary

2019年 5月18日 印刷
2019年 5月30日 発行

■ 企画・発行

株式会社 日向中島鉄工所 ©

〒883-0062 宮崎県日向市大字日知屋17148番地9
TEL 0982-52-7215

■ 印刷・製本

有限会社 鉱脈社

〒880-8551 宮崎県宮崎市田代町263番地
TEL 0985-25-1758

(株)日向中島鉄工所
Thanks

創立５０周年記念行事
sFestival